

令和元年
菊川市こども議会

令和元年7月31日（水）

菊川市こども議員名簿

	小学校名	氏名	性別	題名	グループ
1	加茂小学校	おりべ 織部 りえる 俐慧	女	だれもが笑顔で関われる菊川	A
2	小笠東小学校	わたなべ 渡邊 さとや 智耶	男	特産品が有名な街 菊川市	
3	河城小学校	おおたけ 大竹 あやか 彩加	女	大好きな菊川市のよさをみんなに	
4	六郷小学校	くれまつ 榑松 ちひろ 智大	男	公園を大きくしてほしい	
5	内田小学校	ほその 細野 たまき 珠己	女	菊川の自まんを増やそう	B
6	六郷小学校	さいとう 齋藤 そうま 奏磨	男	さわやかで人気の菊川市	
7	小笠北小学校	かすや 粕谷 ゆいな 結菜	女	お茶が苦手な子でも楽しめるお茶パークをつくりたい	
8	横地小学校	いとう 伊藤 だいご 大悟	男	未来の菊川市をみんなが暮らしやすい街にしよう！	
9	小笠東小学校	やまだ 山田 きらら きらら	女	子供から大人まで楽しめる未来の菊川	C
10	堀之内小学校	いしはら 石原 るか 瑠夏	男	「菊川の特色」を生かすために	
11	牧之原小学校	なかだ 仲田 あいみ 愛未	女	わくわくするまち 菊川	
12	小笠北小学校	いながき 稲垣 あきら 晃	男	人口を増やし、よりよい菊川市にするために	
13	六郷小学校	やまぎ 山崎 さら 紗羅	女	有名な市への取り組み	D
14	内田小学校	つちや 土屋 そうし 颯志	男	菊川市を訪れる観光客が増えるために	
15	小笠北小学校	やすい 安井 みきや 幹弥	男	文化を生かしながら環境のバランスがとれる町	
16	河城小学校	おちあい 落合 まほ 麻帆	女	有名な菊川へ	
17	小笠南小学校	おかもと 岡本 だいち 大知	男	菊川市に職業体験施設を造ろう！	D
18	加茂小学校	ふじえ 藤江 りあ 理愛	女	きくがわのわ広がる「週末カフェ」	
19	堀之内小学校	たじま 田島 けんた 健太	男	笑顔あふれる菊川市	

こども議長

グループ名	こども議長名	小学校名	備考
Aグループ	わたなべ さとや 渡邊 智耶	小笠東小学校	Bグループ発表時の進行を行う
Bグループ	さいとう そうま 齋藤 奏磨	六郷小学校	Cグループ発表時の進行を行う
Cグループ	なかた あいみ 仲田 愛未	牧之原小学校	Dグループ発表時の進行を行う
Dグループ	おちあい まほ 落合 麻帆	河城小学校	Aグループ発表時の進行を行う

だれもが笑顔で関われる菊川

加茂小学校6年1組 織部 俐慧

わたしが思う未来の菊川は「だれもが笑顔で関われるまち」です。

まず菊川市の強みは、二つあると思います。一つ目は、お茶です。菊川市のお茶はとても深みのあるおいしいお茶で、他の市や県外に広められるものだと思います。二つ目は、人の温かさです。心が広い人が多く、笑顔が多いということです。おいしいお茶を飲みながら、心の温かい人々に囲まれて生活できるまちになる可能性を秘めていると思います。

だれもが住みやすいことも、未来の菊川市に必要です。そのための課題は四つのことだと思います。一つ目は、ルールについてです。菊川市には、いろいろなところに公園がありますが、遊具の使い方が危ないことが多いので、使い方を決めた方がいいと思いました。例えば、年齢によって帰る時間を変えることです。私は高学年になって、公園の遊具で遊ぶことは少なくなりましたが、たまに遊ぶときに3・4才の小さな子がいると、お互いにおもいきり遊ぶことができないことがあります。日の長いときには、家に帰る時間をずらし、小さい子どもから小学生まで安全に遊ぶことができる工夫をすれば、お父さんとお母さんも安心すると思いました。二つ目は、地域の方々と交流を盛んにすることです。そうすることで、昔のことを知ることができ、コミュニケーションをとることが楽しく感じるが多くなると思います。子どもからお年寄りの方までお互いのことを知ることができ、地域全体で温かい雰囲気をつくることにつながると思います。三つ目は、あいさつです。加茂小学校では、進んであいさつをするということ、目標として行っていますが、できている人ばかりではなく、声が小さかったり、進んでというところができていなかったりする人が多いです。そのため、他の学校もあいさつはできている人は多いかもしれませんが、進んでという部分はできていないと思います。菊川市の小学校全域の目標など、なにかあいさつについてを考える事ができたら、もっと明るい菊川市になると思います。四つ目は、菊川市にみんなが遊べる遊園地のようなところをつくり、いろいろな人がふれあえる場所を増やした方がいいと思いました。みんなが楽しめるルールを決め、地域の交流の場となる場があれば、住みやすい菊川に近づくとと思います。

また、観光客を増やすことも菊川市の未来に不可欠です。菊川市に、もっと観光客が来れば、菊川の魅力に気付き、ここに住みたいと思ってくれる人たちが増えると思います。菊川市の人口が増えれば、更にはぎやかに、多くの人々にとって素敵なまちとなると思います。

今まで書いたことを、菊川市の方々に知ってもらいたいと思います。いろいろな人たちが協力してつくり出した菊川のお茶を飲みながら、温かい人々に囲まれ、だれにとっても住みやすいまちとなることを願っています。

特産品が有名な街 菊川市

小笠東小学校6年1組 渡邊 智耶

ぼくは、菊川市の平和な所や自然や公共施設が多いところが好きです。ですが、菊川市には観光スポットが少ないことや、名産品を加工したものが無いと感じています。例えば、浜松はウナギが有名でうなぎパイがあるけれど、菊川市はお茶が有名ですが、うなぎパイのような有名な加工品がありません。

ぼくは、菊川市の特産物を有名にしたいと考え、三つの方法を考えました。一つ目の方法は、チラシや広告を全国に出すことです。チラシや広告を全国に出せば、菊川市以外の人も菊川市にひっこしてきた人もチラシや広告を見て「菊川市の〇〇おいしそうだな。」とか「菊川市のこの△△△を買いに行こう。」と考えたり、人に伝えたりして、菊川市が有名になるでしょう。そうすれば、人も集まってくると思います。このようなことが期待できるので、チラシや広告を全国に出すのは一つのいい手だとぼくは考えました。

二つ目の方法は、菊川市の人、または、菊川市の特産品を買った人がその商品のことを友達にLINEなどで広げていくことです。情報を受けた人がその特産品を買っていけば、ループでどんどん特産品が有名になっていくと思います。LINEだけでなく、SNSもどんどん活用できると思います。

三つ目の方法は、ネットやCMで宣伝する。〇〇フェスに特産品を出すという方法です。CMやネットで商品を見た人は興味をもつと思います。そうすればネット販売（例えばメルカリなど）しているのを見つければ、買ってくれると思います。また、〇〇フェスで商品を展示していれば、「何だ、この食べ物見たことないぞ。」と興味を持ち、商品を買ってくれると思います。フェスには菊川市ではない町に住んでいる人も多く来ます。参加者が多ければ多いほど、菊川市の特産品を買ってもらえる確率が上がるでしょう。

ぼくは、この三つの方法のどれか（できれば全ての方法で）ができれば、菊川市の特産品がどんどん有名になっていくと思います。菊川市の特産品が有名になれば、菊川市も全国で有名になっていくと考えています。ぼくは、市役所の人にこの方法を使ってほしいと思います。今、菊川市の人口は約48,000人で、掛川市の約117,000人と差が大きいので、特産品を有名にしていくことで菊川市を元気な街にし、人口を増やしていきたいと考えています。

大好きな菊川市のよさをみんなに

河城小学校6年2組 大竹 彩加

私は菊川市が大好きです。なぜ好きなのかというと、それは菊川市は自然豊かで周りを見わたせば、緑いっぱいだからです。でも、菊川を観光しに来る人や、菊川市のよい所を知らない人がまだたくさんいると思います。そこで、私は菊川のことをもっと知ってもらい、有名にするために、二つの方法を考えました。

一つ目は、菊川市をまわるツアーを計画することです。菊川でこそできる自然の遊びや体験を取り入れ、菊川市の自然の豊かさを伝えられればいいと思います。例えば、お茶つみをやってみたり、お茶のいれ方を教えたりするのはどうでしょうか？静岡県内に住んでいても、最近ではペットボトルやお茶パックがあるので、なかなか急須でお茶をいれる人が少ないと思います。ですので、そのような人たちに急須でいれるからこそ分かる、お茶のおいしさを味わってほしいと思います。他にも、菊川市の文化財や名所めぐりなどで、菊川市のよさをたくさんの人に知ってもらえればいいと思います。最近では、インスタグラムやフェイスブックなどのSNSを利用する人が多いと思うので、観光客の方が菊川のことを発信し、広めることにより、それを見た人が「菊川市っていい所だな」「菊川市に行ってみたいな」と思ってもらえると思います。このように、菊川市をまわるツアーを計画すれば、菊川を有名にできるし、菊川市を活性化できると思います。

二つ目は、菊川を有名にするためのポスターを菊川市内の小学生が描くことです。題材は菊川市の有名な深蒸し茶や自然の豊かさ、文化財がいいと思います。菊川市内の小学生がポスターを描くことで、これからの未来を担う私たちの、菊川への意識が高まると思います。そして、そのポスターを見た人が、菊川市に興味を示してくれるのではないかと思います。

このように、私は菊川市を有名にするために、この二つの方法を提案します。この二つの方法を実せんすれば、今の菊川市よりも、もっといい菊川市になると思います。ですが、この二つの方法を実せんしたからといって、必ずみんなが菊川市に興味をもってくれるとは限りません。けれど、試してみる価値はあると思います。この方法が成功し、菊川市に来てくれる人が増えたら、もっと色々なイベントを計画して、たくさんの人に菊川市の良い所を知ってもらえれば、とてもうれしいです。私の大好きな「菊川市」。これからもたくさん応援していきたいです。

公園を大きくしてほしい

六郷小学校6年1組 樽松 智大

身の周りに大きくて、スポーツがのびのびできる公園がほしいです。公園が小さくて、ボール遊びができません。

以前、小さな公園で野球やサッカーで遊んでいた時に、ボールが道路に出て、車に当たってしまいそうになったり、実際に当たってしまったことがあります。そのため、朝と夜、家の前で兄とキャッチボールをしました。すると、となりのおばさんに

「ここは、キャッチボールをするところではない。」
と怒られてしまいました。

お母さんと兄に聞くと、お母さんは、

「この近くに大きい公園がないから、もうちょっと公園を大きくしてほしいね。この近くに作ってほしいね。」

と言っていました。兄は、

「大きい公園だったら、中央公園があるけれど、高台にあって登っていくのが面倒だから行きたくない。」

と言っていました。ぼくは、遠いのは仕方がないと思っています。しかし、大きな公園の一部分を野球やサッカー、テニスなど、スポーツがのびのびできるスペースにすれば、野球をやっている時に、

「ぼくたちも、その公園でサッカーをやりたい。」

と言うような言い争いやケンカにもなりにくいと思います。また、公園にたくさんの人が集まって、色々なスポーツをやっている時に、打ったり蹴ったりしたボールが他の遊びをしている人の頭や体にボールが当たることもあるかもしれません。それによって、ボール遊びは危険だから禁止となってしまうことも考えられます。それを防ぐために、場所を分けるという考えもあると思います。スポーツに興味をもった子どもが大きい公園で練習をしたら、将来プロの選手になるかもしれないし、老人になっても、運動を続けたら、健康で長生きができるかもしれません。

よりよい菊川市にするためにも、公園を大きくしたり、一部分をスポーツがのびのびとできるスペースにしたりすることはプラスになると思います。ぼくのように野球をする人だけではなく、いろいろな立場の人に相談をし、公園のあり方を見直してほしいと思います。運動をして汗を流すことは、健康だけではなく、一人一人の笑顔につながるので、未来も安心して過ごせると 생각합니다。だから、ぼくは大きくてのびのびとスポーツができる公園を作ってほしいと切に願います。

菊川の自まんを増やそう

内田小学校6年1組 細野 珠己

「菊川といたらお茶」とだれもが答えると思います。しかし、菊川には他にもいいものがいっぱいあるのではないのでしょうか。菊川のよりよい未来を考えたとき、私はもっといろいろな人に菊川の魅力を知ってもらい、市民が自信や生きがいをもち、市外からも人が来てくれれば、街も活性化されよりよい菊川になることができるのではないかと思いました。そのために私は、菊川のお茶だけではなく、野菜について知ってもらおうと考えました。それがよりよい菊川の未来へ続く、第一歩だと思ったからです。

そこで、菊川の野菜はどんなものがあるかを調べてみました。すると、菊川の冬レタスは、日本でなんと収穫量が17位、出荷量は15位でした。他にも企画政策課の人に聞いたところ、茶豆やトマト、メロンなどの農産物にも力を入れているということで、嬉しくなりました。

更に、農業全体についてどんな取組をしているか調べてみました。菊川は、恵まれた環境や交通状況などを生かし、地域の特色ある農業が展開されていました。しかし、高齢化問題や後継者不足は深刻でした。農業が魅力ある職業として選択できるようになってほしいと思います。実際に今取り組んでいる「菊川型農業モデル」では、農産物のブランド化や作物転換に必要な知識・技術の支援、新たな就農者への農地のあっせんなどを行っていることがわかりました。後継者不足を止めるために、市がこれだけいろいろな取組をして支援しているのだなと思い、少しほっとしました。農家さんにとっても望ましい状況になっているのではないかと思います。

しかし、野菜で菊川をPRするのは難しいと思うかもしれません。今、たくさんの人に知られるには、私はお茶だけがじまんではダメだと思うのです。人口減少や少子高齢化が進んだ菊川でも、自まんでできることを増やし、みんなに興味をもってもらうことが大切だと思ったのです。私のクラスではよりよい菊川になるために何ができるのか発表し合いました。その中で、菊川の歴史について調べている友達もいて、私自身も意外と知らないことに気付きました。菊川には多くの文化財が存在していることを知り、それらを保護し観光資源として活用すれば、これらも菊川の自まんになるのではないかと考えました。

いろいろな人に菊川を知ってもらいたい。菊川にはお茶だけでなくおいしい野菜もあるということを知ってもらいたい。そのために今の私にできること、それはまずは菊川の野菜を食べることだと思いました。菊川の野菜のおいしさがわかりいろいろな人に勧め、その人からもいろいろな人に勧めていけば、どんどんつながってみんなに知ってもらえると思います。菊川のじまん、いろいろあるよ、と言える菊川を未来に伝えていきたいです。

さわやかで人気の菊川市

六郷小学校6年2組 齋藤 奏磨

ぼくは、さわやかで人気の菊川市を目指したいと思います。なぜかという、ゴールデンウィーク中にさわやかに行こうとしたら店の外まで並ぶほど混でいました。それもほとんどが他の県から来た人達です。10時間待ちのさわやかもあると聞きました。わざわざ他の県から来たのに食べられずに終わってしまうのは、よくないと思ったからです。

菊川市は交通の面ではとても発達しているので、さわやかが何店舗もあればもっと他の県からのお客さんが増えるし、菊川の良さも知ってもらえると思います。なので、菊川の良さも知ってもらえるし、観光客もいっぱい来るし、ホテルや空港やJRももうかるし、自分達も並ばずに食べられるし、農家ももうかるという一石六鳥です。

なぜ農家がもうかるかという、「さわやかを増やすと農家さんがもうからなくなってしまふんじゃないか。」という質問があったので、その農家さんの作っている野菜をハンバーグと一緒に添えればいいと思うからです。また、さわやかで出てくる水を、菊川のお茶に替えるということも考えています。

他にも、こんな意見がありました。「無理だと思う。」いいえ、できるとぼくは考えています。人間に想像できることは、必ず実現できると思います。

そのためにまずすることは、ETCの近くにさわやか、空港の近くにさわやか、駅の近くにさわやかを建てることです。そうすることによって、さわやかを知らずにやって来ても目にとまると思ったからです。他にも、年に一回給食にさわやかのハンバーグを出すとか、皆勤賞の人にはさわやかの商品券をプレゼントするなどできればいいなと考えています。

そしてぼくが最も実現したいと思っていることは、さわやかのハッカ飴商品化です。それも菊川限定品です！さわやかの第1号店は菊川にあるので、菊川限定にした方がいいと思いました。そうすることによって、菊川にたくさんの方が来ると思います。

ぼくは、さわやかで菊川を活性化することにより、いろんな人がハッピーになれると考えました。農家の人だったり、ホテルの人だったり、市民の方だったり、菊川市も、さわやかも、空港も観光客も、肉を生産しているオーストラリアの方だって得したり、おいしかったり、うれしかったりします。なので、菊川市全体がハッピーになると考えました。そのためにすることは大変なことかもしれませんが、菊川市の活性化につながるととても良いと思います。

お茶が苦手な子どもでも楽しめるお茶パークをつくりたい

小笠北小学校6年1組 粕谷 結菜

菊川市は、深蒸し茶が有名です。しかし、家でお茶をいれて飲む機会が少なくなったり、深蒸し茶になじみがない人もいたりします。そこで、私は、お茶の苦手な子どもでも楽しめる『お茶パーク』をつくりたいと思います。お茶は、大人にはなじみがあるけれど、子どもにとっては「苦い」というイメージがあり、お茶が苦手な子どもたちがたくさんいます。そのため、もっと子どもたちにお茶のおいしさを知ってもらうために、お茶パークをつくりたいと考えました。

お茶パークをつくる良さは、お茶が苦手な子どもでも楽しむことができるということです。お茶パークには、お茶に関するお店や大きな公園などを置きたいと考えます。

お茶に関するお店には、お茶が苦手な子どもたちもおいしく食べることでのお茶味のクッキーやソフトクリームなど、子どもから人気のあるおかしをお茶風にアレンジしたものを置いたらよいと思います。また、ゆっくりお茶を楽しむことができるカフェがあると大人も楽しめると思います。

また、大人がカフェでゆっくりしている間に、子どもたちが楽しめる大きな公園をつくりたいです。公園には、お茶の葉をイメージした遊具があったら、おもしろいと思います。また、公園の中にいくつかのポイントを作って、お茶に関するスタンプラリーができるようにすると、子どもたちも知らなかったことを知れて、お茶に興味を持つかもしれません。そして、お茶ってすごいんだな、お茶を飲んでみようかなと、お茶に親しむ子どもも増えるのではないかと考えます。

私は、子どもたちにお茶のおいしさを知ってもらって、もっとお茶を飲んでもらいたいです。そして、菊川市を大人から子どもまで、みんなに愛されるお茶の町にしたいと思っています。

未来の菊川市をみんなが暮らしやすい街にしよう！

横地小学校6年1組 伊藤 大悟

僕は、今の菊川市は暮らしやすいと思っています。しかし、「さらに暮らしやすい町にするには」と考えてみると、2つの課題があると思いました。

その中で、僕が考える今の菊川市の大きな課題は、人口の少なさ、観光スポットの数の少なさと知名度の低さです。

1つめの人口の少なさについて考えてみました。今の菊川市の人口は、平成31年4月末で、48,356人です。1番人口が多かった年は、今から10年前の平成21年で、49,748人でした。この10年で人口が、1,392人も減ってしまっています。

それは、静岡県全体でもおなじで、10年前の人口が、3,789,290人で、平成31年4月現在の人口が3,641,988人と10年前とくらべて、147,302人も減っています。

その理由として考えられるのが魅力的な企業や仕事が少ないところや、家賃は首都圏より安いですが、静岡の給料の相場を考えると割安とは言えない価格がついているところなどと、この地域に住むことはデメリットな事が多いのです。1つの方法として、静岡県や菊川市に住むメリットがあるような取り組みをしていくことが必要だと思います。それは菊川に来てもらうだけではなく、今菊川に住んでいる方がずっとここに住みたいと思う取り組みも必要だと思います。

そのためには、アクセス面の向上、教育施設の充実、子ども達が安全で安心して過ごせる場所を増やすといったことが必要だと思います。交通のアクセスについては、今後いろいろな観光スポットや公共の施設に行くためのバスを増やしたり、そのような施設や駐車場を増やしたりすることで人が多く訪れるのではないかと考えます。菊川に住んでみたくなるという思いを多くの人にもってもらうことが人口を増やす一つの方法だと思います。

次に、観光スポットの数の少なさと知名度の低さです。菊川市で自分が知っている有名な観光スポットといえば、横地城跡です。現状は、とても有名とは言えず、自分は横地地区に住んでいるけど、横地城跡にかかわる話をあまり耳にしていません。

それもそのはず、横地城の歴史があまり知られていなければ、横地城跡は、ただの城跡であり、自然公園としか見えず、あまり楽しくないし何もない場所と思ってしまいます。だからもっと横地城の歴史などをみんなに知ってもらえるようにしたいです。

そこで、僕が考えているのは、横地城跡がみんなに知られて、子連れにも高齢者にも楽しめるような公園にするためにPR活動や横地城跡周辺の環境を整えていきたいです。

- ・菊川市や静岡県、横地氏にゆかりがある芸能人にPRしてもらう
- ・ニュースで、菊川（横地）の観光スポットの穴場として紹介してもらう
- ・自分達で、他の市の友達に伝えていく
- ・ポスターやホームページを作って掲載するといったPR活動を行っていく。
- ・近くの公園などの子供向けの施設を整備する
- ・地域の人達で横地城跡周辺を掃除する（エコクラブのように）
- ・資料館を建てる

といった環境を整備していくといったことが考えられます。

この取り組みを菊川市の他の観光スポットも同様に行っていくことで、菊川市の観光に大きな光になり、菊川市がもっと輝く市になると思います。

また、それで得たお金で、菊川市の改善点（道路の幅や道路が荒れているところや福祉施設関連など）を直せば、菊川市がもっと暮らしやすくなると思います。

子供から大人まで楽しめる未来の菊川

小笠東小学校6年2組 山田 きらら

みなさんは、今の菊川は好きですか。私はお茶畑がたくさんあって、友達がたくさんいる菊川が大好きです。でも、今の菊川は、周りのほかの市と比べて、ちょっとさみしい感じがします。菊川がもっとにぎやかで、みんなが楽しくなるような町にするために、わたしたちにできることを一緒に考えてみませんか。

私の目指す未来の菊川は、「子供が多く、子供から大人までみんなが楽しむことができる町」です。調べてみると、お年よりは10年間で2,225人増加しているのに対し、子供は255人減少しています。このままでは、ますます子供が減って、さみしい町になってしまいます。子供がたくさんいて、にぎやかで住みやすい町になれば、町全体の人口も増えていくと思います。そこで、菊川の特産品のお茶を利用しながら、みんなが菊川に住みたくなるような、楽しい施設を考えてみました。

まずひとつめは「お茶畑を利用したアスレチック」です。茶畑を使った迷路や、茶つみ体験をしながらできるアスレチックがあれば、子供たちはもっともっと茶畑が好きになります。体験しながら遊べる施設があったら最高だなと思います。菊川市以外のところからも、たくさんの子供たちが遊びに来て、菊川が有名になるかもしれません。

つぎは、子供だけでなく、大人も楽しめるお茶のお店があるといいと思います。みなさんは、菊川駅の近くに「サンGRAM」というお茶カフェがあるのを知っていますか。わたしは、どんなお店か調べるために、お母さんと行ってみました。サンGRAMには、いろいろな種類のお茶を売っていたり、そのお茶を飲んだりすることができました。また、店の奥にはお茶を楽しむための庭もありました。お茶好きの菊川の人は、きっと楽しいと思います。わたしは、こんなお店と温泉を合体して、子供から大人までが楽しめる大きな店があればいいと思います。お茶を入れたお茶温泉にすれば、お年よりもゆっくりできます。

最後に考えたのは「お茶屋台街」です。わたしは、夏に菊川駅前で行われる「夜店」に友達と毎年行きます。ととにぎやかで、毎日菊川がこうだったらいいなと思います。そこで、毎日楽しむことができる「お茶屋台街」を作って、今、はやっている「チーズドッグ」や「タピオカ」もお茶で作って売ればいいと思います。これから特産品にしようとしている「茶まめ」や、「お茶グッズ」も売れば、お茶の消費量が増えるし、「お茶屋台街」をめあてに観光客が増えて、もっともつにぎやかな菊川市になるのではないのでしょうか。

このように、菊川の特産品であるお茶を使った、みんなが楽しめる施設やお店ができれば、今よりもっと子供が増え、観光客もたくさん来るにぎやかで楽しい町になると思います。それが、私の目指す未来の菊川市です。

「菊川の特徴」を生かすために

堀之内小学校6年雪組 石原 瑠夏

ぼくは、菊川の特徴である「お茶」をよく飲む。とてもおいしくて、飲みやすい。学校でも給食の時に出るのだから、親しみやすい。しかし、学校を卒業した後はどうだろうか。大人になると、お茶よりコーヒーを飲むことが多くなり、お茶は特に若い方は、飲むことが少なくなっている。なぜだろうか。そこで、どうしたら増えるのかいくつかの方法を考えてみることにした。飲みやすい（食べやすい）方法にすれば、菊川市の住人、菊川市に来てくれた人にも喜んで飲んでいただけるのではないかな。菊川のお茶はおいしいと有名になって、もっといろいろな分野で発展できると思う。

まず一つ目の方法は、お茶でケーキやクッキーなどを作ることである。今現在、この方法で作られている商品もあるが、とてもおいしい。市民だけでなく菊川を訪れた人にも、楽しんでいただけていると思う。今後は、その商品を増やして行けたら良いと思う。「お茶は飲むもの」という点にとらわれずに、「お茶の加工品」として売ることによって、おいしくて栄養のある体に良い菊川茶を知ってもらって、そして飲んでみたいと思うきっかけにできると思う。

二つ目の方法は、SNSなどのインターネットで、他人と写真を共有できるサービスを利用することである。興味を持った人が菊川に来てくれて、またその人が良かった所などを紹介することで、それを見た人がさらに興味を持つ。どんどん有名になっていけるのではないかな。

さらに調べていくと重大なことがわかった。お茶の生産が減ってきているのだ。お茶を飲む人が減ってきているからだ。このままでは、「お茶の町菊川」からお茶が消えてしまう……。だから、「お茶」を普及できるように、どんな世代の方にも食べて（飲んで）もらえるようなものを生産することが大切なのだ。「こんな食べ方もあるのか。」とお茶の新しい可能性を感じることが出来るのも良いだろう。まずは、菊川市民から始めて見てはどうだろう。市民が「お茶ってすばらしい。」「もっと広めなくては。」とお茶に対して再認識することが一番の方法だと思う。そのことで、市民が動き、「菊川茶」を何とかしようと思いが動けば、減り続けている菊川茶を作ろうと思う人が増え、広めようと頑張る人も増え、その結果「菊川茶」がもっともっと有名になると思う。

ぼくは、菊川の自然豊かな町並みが大好きである。さらに季節によって変化するお茶畑が菊川の自慢だと思う。自分の思う理想の町、「活気あふれ、みんなの笑顔あふれる町 菊川」という理想像に近づくために、ぼくも菊川市民として努力していきたい。

わくわくするまち 菊川

学校組合立牧之原小学校 6年1組 仲田 愛未

私は、菊川市を楽しめるまちにしたいと考えます。菊川市を楽しめるまちにするために、あることを考えました。それは、菊川のよさたっぷりツアーを企画することです。

現在の菊川市は、住む人も遊びに来る人も楽しめるように、アエルでコンサートをしたり、サーカス呼んだりして人々を楽しませています。見る楽しみはありますが、自分が活動できるイベントも考えてみたらどうでしょうか。菊川のお茶摘みを体験できるイベントや、自分のつんだお茶を手もみ茶にして飲めるツアーを企画します。

まず、ポスターやチラシで宣伝するだけではなく、イベントやツアーがあることを若い人達や小さい子供がいる人達に知ってもらうために、動画サイトやツイッターなどのSNSで情報を広めます。

次に、菊川市には菊川駅があるので、そこからバスのツアーにして移動すれば、車のない人や道がわからない人がいても簡単に菊川のまちを楽しめます。ツアーでは、茶摘みや手もみでお茶を知ってもらうだけでなく、さらに菊川のよいところを知ってもらいます。例えば、公園がたくさんあるので公園に行つてのんびりしてもらいます。公園では、地域のお店や農家の人のお店を出して、菊川の特産物であるトマトやメロンを紹介してもらいます。暑い日はくずしやりをみんなで食べるとおいしいと思います。棚田やホテルの里にも行きます。景色やホテルを見ながら、「自然がいっぱいあって菊川っていいところだな」と、思ってもらいたいです。若い人たちには、写真をとつてSNSで広めてもらうとさらにいろんな人に菊川のよさが知ってもらえます。

菊川のよさを実際に体験して、食べて、その場所に行つて感じてってもらいませんか。

また、このツアーでは、菊川のお店の方やボランティアの方とふれあえるので、菊川の人の優しさも感じられます。「菊川っていいところだな、また来てみよう、住んでみようかな」と思ってくれる人が増えるともっと菊川が盛り上がり楽しくなると私は思います。このアイデアが、たくさんの方が楽しめるまちづくりのきっかけになったらうれしいです。

アエルでゆったりいろんなものを見ることができ、ツアーやイベントでいろんなことができるわくわくするまちになれば、住んでいる人も別の場所から遊びに来る人も楽しめると思います。私が住んでいる菊川市はとても住みやすく、平和なまちだと思っています。このツアーで菊川のよさを知つた人が菊川市に引越して、一緒に平和な住みやすいまちを作つていってくれたら嬉しいです。

人口を増やし、よりよい菊川市にするために

小笠北小学校 6年2組 稲垣 晃

よりよい菊川市にするために、ぼくは人口を増やす必要があると思います。なぜそう考えたかという、人口が増えることで、菊川市が今よりも栄え、自然豊かな町が、さらに豊かになると思ったからです。

では、菊川市の人口を増やすためには、どうすればいいのか。ぼくは、観光地を増やしていく必要があると思います。観光地を増やすことで、菊川市のよさを多くの人に知ってもらうことで、菊川市に住みたいと思う人が出てくると考えたからです。

「菊川市の観光地といえば？」とたずねられても、正直、すぐに思い浮かぶことができないというのが、今の菊川市の観光地の様子だと思います。北小の近くにある黒田代官屋敷は有名ですが、そこまで整備されているとは言えません。

そこで、今ある文化財や自然環境などを整備して、新たな観光スポットをつくりだしていけばいいのではないかと考えました。観光スポットを増やしていくことで、菊川市に興味をもち、訪れてくる人が増えてくると思います。そして、その観光スポットの近くに、菊川茶のお店や菊川茶のスイーツのお店をつくったり、菊川市でつくった農産物を売るお店をつくったりすることで、菊川のよさを伝えるだけでなく、菊川市の特産品をPRすることができます。菊川市のよさをたくさんの人に知ってもらうことで、菊川市を好きな人が増え、訪れる人が増えることで、お店がさらに増えるようになり、今よりも便利でよりよい町になっていくと思います。

しかし、人口が増えることによって、悪い面も多くなると思います。犯罪や交通事故などが多くなると予想できるからです。

交通事故を減らすためには、道路を整備したり、信号などの環境を整備したりする必要があります。交通事故が減ることによって、菊川市は安心安全でくらしやすくなるので、そういったくらしやすさが、人口増加にもつながっていくと思います。

人口を増やし、よりよい菊川市にするために、まずは観光スポットを増やすこと、そして安心安全に暮らせる対策を充実させていく必要があると考えます。

有名な市への取り組み

六郷小学校6年3組 山崎 紗羅

菊川市が有名になるように私は願っている。なぜなら、有名になれば、菊川市の課題になっている人口減少をとめて、活気ある街になることにつながると思うからだ。

そのために、市外の人や観光客、外国人の方々に菊川市を知ってもらうことが大切だと私は思う。

以前、掛川のアピタに買い物に行ってきた。売り場にさくら屋のくずしやりが置いてあった。でも、みんな買って来ていないし、見もしてくれていないようだった。せっかくおいしくずしやがあるのに。私はさくら屋さんや大竹屋さんが大好きだから、もっとたくさんの人に知ってほしいし、そういう菊川市のものが有名になっていくことは菊川市民もうれしいと思う。だから、私たち菊川市民が協力して菊川市を有名にしていくことが良いと考える。

まず私たちができることは、菊川市の魅力をもっと知ることだと思う。菊川市民でも知らない店や行ったことがないところは実はいっぱいあると思う。菊川市の特産物やスポットの紹介のパンフレットをたくさんの人が来そうな菊川駅や市役所、さらにいろいろな人が買いに来るお店などに置くと、パンフレットを手にとってくれる人がいるかもしれない。

そして、菊川市に住んでいる人が市外、県外の知り合いに情報を伝える方法を考えてはどうだろう。人気のSNSやクチコミサイトで、写真を載せたり、(おいしい)や(最高)と書いたりして、いろんな人に知ってもらうことで、菊川市に来てくれるかもしれない。

さらに、菊川市にしかない商品をお中元やお歳暮などで送ってもらえばどうだろう。そうすれば、受け取った人は商品を食べてきっと

「おいしい。」

と、言ってくれると思う。その人が送った人に、

「おいしかったよ。」「また送ってね。」

と言ってくれると、また送ったり、自分で買ったりするようにもなるかもしれないと考えた。

かわいい菊川市のマスコットキャラクター「きくのん」を活躍させるのも良いと思う。きくのんが、ゆるキャラグランプリで一位になれば、菊川市が有名になると考える。過去に浜松市のマスコットキャラクターの出世大名家康君も一位になったことがある。一位になったことでニュースなどに取り上げられて有名になったと考える。だから菊川市にも有名になる確率があると思う。そうすれば、菊川市のことが知られ、どんなところか調べたり、行ってみようと思ったりするかもしれない。

菊川市が有名になってほしいと私は願っている。菊川市のことが伝わり、(菊川市っていいな。)(住みたいな。)って思ってくれる人が増えたらうれしい。前に菊川市役所の人に話を聞いて、たくさん課題に取り組んでくれていることが分かった。市の人がやるだけでなく、私たち菊川市民からも菊川市のことを伝えていって、少しずつかもしれないけど、有名にしていきたい。

菊川市を訪れる観光客が増えるために

内田小学校6年2組 土屋 颯志

ぼくは、菊川市を観光客が増える街にしたいです。観光客が菊川市のことを良く思い、さらに引っ越してくれれば、菊川市の人口増加にもつながると思います。

学校で菊川市のことを調べたときに、菊川市のホームページに市内にある名所などがたくさん載っていることに気付きました。しかし、名所の紹介をしても、菊川市を訪れ、市内を回るきっかけがないと、観光客に来てもらえないと思いました。

そこでぼくは、菊川市にある名所などを回る、学区を基にしたツアーを作ることを提案します。学区にしたのには、理由があります。1つは、その学区の良さを知ること、もし菊川市を訪れた人が引っ越してきたとしても、安心して子どもを学校に行かせることができると思います。また、その学区の小学生に名所を紹介してもらうことができることも理由の一つです。

例えば、ぼくたちの地区にある内田百選をまわるツアーはどうでしょうか。加茂小学区や六郷小学区など、学区を基にした地域をまわるツアーが考えられます。そして、全ての学区をまわったら、菊川市ならではの景品をわたすなどしたらどうでしょうか。このように、楽しみながら菊川市をまわるようにすればいいと思います。

どのように菊川市をまわるツアーを知らせていくかを考えたとき、菊川市のホームページにのせることを思いました。しかし、菊川市を特別に検索することは少ないでしょう。そのため、CMを作ったり、ニュースに取りあげてもらったりしたらどうでしょうか。または、最近SNSが流行っているので、そこで知らせてもいいと思います。

菊川市に住む人だけでなく、他の市や県の人に、菊川市の名所やいいところを知ってもらいたいと思います。知ってもらえることは、きっと菊川市の人口増加にもつながり、よりよい菊川市になっていくでしょう。ぼくにできることは、ツアー作りに参加し、提案していくことだと考えます。菊川市民として、よりよい未来のための活動を積極的に参加したいと思います。

文化を生きしながら環境のバランスがとれる町

小笠北小学校6年3組 安井 幹弥

今の菊川市はお茶などの特産品や歴史などで町を開発させています。ぼくは、文化を生きながら町と自然のバランスが良い町を実現させたいです。だから、町の開発も深く考えることが大切だと思います。

そこで3つの提案があります。

1つ目は、特産品を使って自然をあふれさせることです。菊川市といえば、お茶やメロン。どれももちろん口で味わいます。しかし、その農業の菊川らしい風景もいろんな人に見てらいたいです。例えば、茶畑や果物畑が一面に広がった世界を眺められるような広場を作ればいいと考えました。

2つ目は、自然も残しながら町を作っていくことです。菊川市はどちらかというと田舎に見られることが多いです。だからといって町を開発させていくばかりになってしまうのはよくないと思います。田舎の風景が好きな人もいますので、どんな人でも住みやすい町がよいはずです。田舎エリアに都会エリア、さらに外国人にもうれしい外国人エリアなどもつくりたいです。田舎エリアでは、農業をしやすい緑に溢れる場所。都会エリアでは、マンションや交通が発達した場所。外国人エリアはそれぞれの国の食材や料理のスーパーが作られた住宅街のような場所にします。そして、静岡県で一番住みやすい市を目指します。

3つ目は、自分たちだけの菊川にしないということです。先ほどの茶畑や果物畑の風景やエリアを分けるだけでは、さわやかな空気を残すことはできません。自然を残し、多くの生き物が共に暮らす町にしたいです。生き物が暮らせるという環境は、人にとっても住みやすいと安心し、笑顔が溢れるに違いありません。

このように、ぼくは、特産品やそのままの自然を使ってさわやかな風景をつくり、どのような環境の人・生き物でも住める、空気の良い、つまり環境のバランスがとれた菊川市にしたいです。

有名な菊川へ

河城小学校6年1組 落合 麻帆

私は自分が大好きな菊川をもっと有名にしたいと思っています。菊川のことをもっと色々な人に知ってもらいたいです。それは、こんなにすてきな菊川なのに、あまり知られていないというのは残念だからです。そこでもっと多くの方に菊川市を知ってもらえるために四つの方法を考えました。

一つ目は、菊川市のパンフレットを作ることです。市民の皆さんにアンケートをとり、どのような場所をパンフレットに載せるとよいかを聞きたいと思います。アンケート結果から、人気のある観光名所や良いところをパンフレットにすれば、たくさんの人に知ってもらえます。また、菊川の人も菊川の新発見につながるのではないかと思います。

二つ目は、小学生が菊川市の宣伝をしたり、ポスターを作ったりすることです。小学生が宣伝することで、たくさんの方が注目して下さると思います。また、質問等があれば、小学生なので、質問しやすいのではないのでしょうか。また、難しい言葉を使わないので、宣伝の内容も分かりやすいと思います。小学生は生まれたころからずっと菊川に住み続けている人が多かったり、友達と買い物をしたりするので、菊川市内をたくさん宣伝できると思います。また、小学生が宣伝する機会は少ないので、話す力も付き、私たち小学生にとってもいい経験になると思います。またポスター作りでは、学校の図工の授業などで取り組んでいるので、その経験を生かし、菊川市の魅力を伝えるポスターを作成することができると思います。

三つ目は、道路に矢印を貼り、それをたどって名所をまわるツアーを企画することです。ガイドさんが説明をしながら歩くと分かりやすく、安全に菊川をまわるができると思います。一人で菊川を散策すると、たとえパンフレットがあっても迷子になったり、楽しめなかったりすると思います。たくさんの人と行った方が不安にならずに楽しめるのではないのでしょうか。

四つ目は、名所をまわるスタンプラリーをすることです。スタンプラリーなら、子どもから大人まで楽しめて、気軽に行けるとと思います。地図もついているので全ての名所をまわることができます。また、地図からそれと裏スポットも見つけられるかもしれません。そうすれば、また来たいと思ったり、他の人に広めてくれたりする可能性もあります。そして、もっと観光客が増えればたくさんの人に菊川の良いところを知ってもらうことができます。

このような方法を実行して、たくさんの人に観光名所や良いところを知ってもらい、私がかっこいい菊川市のことを多くの人に知ってもらいたいです。私たちも色々な方法を考えたり、菊川市で開催されるイベントに参加したりすることで、未来の菊川にこうけんしていきたいです。

菊川市に職業体験施設を造ろう！

小笠南小学校 6年1組 岡本 大知

今、ぼくたちは総合的な学習の時間に、ドリカムプロジェクトというテーマで、いろいろな職業について調べたり、実際に働いている人のお話を聞いたりしています。このテーマの目的は、職業に対する視野を広げ、自分の夢に対する考えを深めるというものです。学習を進めていくと、思ってもみなかった職業や、おどろくような仕事内容の職業がありました。ぼくは、たくさんの人が様々な職業を知り、自分の未来に対する視野を広げてほしいと思うようになりました。そこで、ぼくは、菊川市に職業体験施設を造ることを提案します。

実際に職業を体験することで、自分のなりたい職業が決まっている人も、そうでない人も、新たな発見があることでしょうか。そして、自分のなりたい職業を見つけることができるでしょう。なりたい職業が決まったとしても、なるためには専門的な高校や大学に行かなければならない場合があるため、それについて知っておくとよいと考えます。だからこそ、子どものうちから職業体験を通してなりたい職業への進路を考え、希望を持つことが大切です。

ぼくは、科学に興味があります。科学に関係する仕事について調べてきました。ノーベル物理学賞を授業したアインシュタインのことを調べていたら「何かを学ぶために自分で体験する以上にいい方法はない」という言葉に出会いました。職業体験も同じことです。その職業を実際に体験してみないと分かりません。大変さだったり、やりがいだったり、体験するからこそ見えてくるものがあるはずです。以前、学校に、宮大工の方が来て、話をしてくださいました。そのとき、実際に木を削る体験をさせてもらいました。どうやって、家の柱をつくっているのかを体験することができ、とてもいい機会になりました。自分の仕事の時間を削ってまで来て下さったことがとてもありがたかったです。ただ、職業体験施設があれば、実際に仕事をしている方の時間が削られることもないでしょう。一つの施設で、いろんな職業が体験できる、夢のような場所ではないでしょうか。

これは、菊川市の未来のためにもなるプロジェクトです。「菊川市には、職業体験施設がある」これは、菊川市の宣伝にもなり、他県から体験に訪れる人が増えるでしょう。

また、体験施設の中には、お茶農家や、菊川茶を使ったカフェの店員、そのような職業を体験できるブースがあるとよいと考えています。現在、菊川市では、お茶農家の後継ぎがないという話を聞いたことがあります。それは、菊川市だけだと、人員が不足していたり、お茶農家の仕事に対する知識がなかったりするからだと、ぼくは考えます。他県から来た人が、お茶農家の仕事を経験することで、興味を持ってくれる人が出てくると思います。菊川市にある職業を体験することで宣伝し、菊川市で働く人が増える。これは、菊川市の活性化につながるのではないのでしょうか。

この「菊川市に職業体験施設を造る」という考えは、僕だけのものではありません。クラスの中で菊川市をよりよくするために必要な職業や施設を考えたときに、同じような意見がたくさんありました。ふるさと菊川市で働き、菊川市を活性化させたい、そんな思いをみんなが持っているのです。

以上の理由で、私は未来の菊川市のために職業体験施設を造ることを提案します。

きくがわのわ広がる「週末カフェ」

加茂小学校6年2組 藤江 理愛

私は、各地区の公会堂や地区センターを、週替わりで順番に利用して、「週末カフェ」を開いたらいいと思います。

菊川市のホームページ「施設情報」で調べると、菊川市内には地区センターが7ヶ所、公会堂は35ヶ所、公民館や集会所、コミュニティセンターも含めると155ヶ所もの施設があることが分かりました。

わたしの住んでいる地区の加茂地区センターには、約90名が利用できる集会室や和室の研修室、調理室などがあります。実際に私も、週1回の空手教室や放課後子ども教室で利用しています。

しかし、他地区の公会堂や地区センターに行ったことがなく、中がどのようになっているのか、どのような部屋があるのか知りません。どうすれば私でも利用することができるのかなと考えたところ、「週末カフェ」を思いつきました。週末ごとに各地区センターや公会堂でカフェをオープンすれば、いろいろな地区センターや公会堂にいけると思ったからです。

カフェでのメニューは気軽に食べられるものがいいと思います。片手で食べられるサンドウィッチ、お年寄りの方にはおまんじゅう、若い人に人気のタピオカジュースやクレープ、各地区のオリジナル料理やお菓子があってもおもしろいかもしれません。代金は全て100円均一にすれば、小さい子どもでも気軽に利用できると思います。

同時に、図書館の移動車で本のレンタルができれば、カフェでお茶の楽しみながら本を読み、おすすめの本を紹介し合うなどの交流が生まれます。手芸教室や英会話教室などを開けば、いろんなことを楽しく学べます。ミニコンサートを開けば、ピアノやギターなど日ごろの練習の成果を発揮できる場になります。

イベントマップカレンダーを作って配布したり、菊川市のホームページやフェイスブックなどのSNSで情報を発信したりすれば、「どこにいろんな施設があるのか」「いつ、どこで、どのようなイベントを楽しめるのか」が分かります。

各所にスタンプを置いて、10個集めると「きくのんグッズ」をプレゼントするなどの工夫をすれば、たくさんの方が参加してくれると思います。週末のカフェを楽しみに1週間学校や仕事を頑張れたり、疲れたときに息抜きできる場所になったりするかもしれません。

「週末カフェ」をとおしてみんなが各地区を行き交うことができれば、菊川市全体の交流を深めることができ、「きくがわのわ」を広げることができます。このような活動が広まれば、市外や県外からも遊びに来てくれる人が増え、菊川市の魅力をアピールできるきっかけになるかもしれないと思います。

笑顔あふれる菊川市

堀之内小学校 6 年月組 田島 健太

ぼくは、菊川市を笑顔があふれ人がたくさん集まる楽しい町にしたいと思いました。そのために、菊川にある自然を生かした楽しい施設を作ることを提案します。

最近、自然を全面に押し出したアスレチック施設や外の景色を楽しみながら食事ができるカフェなどが流行っていることをみなさんは知っていますか。また、町の絶景を撮った写真が SNS にアップされ、その町がとても有名になるといったことが起こっていることもよく耳にします。

これは、菊川市にとって絶好のチャンスだとぼくは思います。菊川と言えば、お茶をイメージする人が多いと思いますが、実は菊川には、七曲池や棚田、公文名の桜並木など、きれいな自然がたくさんあります。そのような自然を全面に押し出すことで、たくさんの人が菊川に来てもらえるようになるのではないかと考えます。

しかし、ただきれいだというだけでは、「菊川っていいところだな。また来たいな。」とは思ってもらえません。なぜなら、他の市や県にも素晴らしい自然や景色がたくさんあるからです。菊川にしかない！菊川だから見られる！菊川らしい！そんな特徴を生かして、誰もが楽しめる施設を作ることが、「また菊川に来たい！」と思ってもらえるための大切なポイントなのだと思います。

例えば、七曲池の周りに咲く桜は、少し高い所に咲いているので、地上に比べて開花や散る時期が遅くなります。それを生かして「まだ間に合う！花見スポット」として紹介したりするのはどうでしょうか。また、池から水を引いて小川を作ったり、その側に小さな図書館やカフェを作ったりして、ゆったりと過ごせるスペースを作るのもよいかもしれません。他にも、近くで桜の花や葉を見られない子どもたちのために、少し高くなった台を設置してあげれば、きっと子どもたちも喜んで桜を見ることができると思います。

桜だけでなく、もみじを植えておけば、秋にはもみじ狩りを楽しむこともできます。小川や池の水ともみじの組み合わせはとてもきれいで、写真映えすること間違いなしです。

このように、菊川にある自然を生かしながら、子どもから大人まで楽しむことができる施設や風景を作っていくことで、菊川市を笑顔があふれ人がたくさん集まる楽しい町にすることができると思います。

僕は菊川市の自然が大好きです。この自然のよさを多くの人に知ってもらい、全国からたくさんの人たちが菊川に遊びに来てくれたら嬉しいです。

